



2026年 5月20日

各 位

会 社 名 シュッピン株式会社
代 表 者 名 代表取締役社長CEO 小野 尚彦
(コード番号：3179 東証プライム)
問 合 せ 先 取締役C F O / C H R O 岡部 梨沙
(TEL. 03-3342-2944)

当社取締役会の実効性に関する評価結果の概要について

当社は、東京証券取引所が定める「コーポレートガバナンス・コード」に基づき、取締役会の機能の一層の向上を図ることを目的とし、2026年3月期における当社取締役会の実効性に関する分析・評価を行いましたので、その概要をお知らせいたします。

記

1. 分析・評価の方法

全ての取締役及び監査役に対し、取締役会の実効性に関する評価の趣旨等を説明の上、アンケートを実施し、全員から回答を得ました。そのうえで、取締役会事務局による当該回答の集計を踏まえ、取締役会における討議を通じ、当社取締役会の実効性に関する分析・評価を実施いたしました。なお、評価を実施した大項目は以下のとおりです。

取締役会の実効性を分析・評価するにあたり、「自己評価アンケート」に基づいて、取締役9名、監査役3名が自己評価を実施いたしました。2026年5月度の取締役会では、自己評価の集計結果の報告がなされ、現状の評価結果の分析及び認識された課題の共有を行うとともに、より実効性の高い取締役会の実現に向けた今後の取り組み等について討議・検証を行いました。

【評価項目】

「自己評価アンケート」における評価項目（大項目）は以下の通りです。

- (1) 取締役会の構成と運営
- (2) 経営戦略、業績のモニタリング
- (3) 企業倫理について
- (4) リスクと危機管理
- (5) 経営陣の評価と報酬
- (6) 社外役員との連携・支援
- (7) その他自由記載

※上記の大項目の下に詳細な小項目を設けて多面的な調査を行っています。

実効性評価アンケートは、毎年の継続的な測定が可能なように、一定の質問項目については毎回同じにする一方で、評価の質を高めるために、質問項目の見直しを毎年行っています。また、自由記入欄を多く設け、アンケート項目にとらわれず多様な意見や提言を吸い上げられるようにしています。

なお、上記1～6の大項目については、5段階で自己評価採点を行い、各設問については、評価できる点、また改善を検討すべき点に関するコメントなどの記載を求める形式としました。

2. 分析・評価結果の概要

当社取締役会は、上記評価項目による評価・分析の結果、「規模や構成、議案や審議内容、活発な議論状況、経営への反映等の点から、取締役会の役割・責務を適正かつ実効的に果たしており、当社取締役会の実効性は十分に確保されている。」ものと評価いたしました。一方で、前年度と比較すると全般的に評価スコアが低下しており、持続的な企業価値向上のために改善を要する課題がいくつか存在しているとも認識されました。

3. 今後の取り組み

当社取締役会は、取締役会評価において認識された以下の課題について、更なる実効性向上のために必要な取り組みを実施し、改善に努めてまいります。

また中長期経営戦略は、将来にわたる会社の方向性や戦略を示すものとして極めて重要なものであるため、引き続き取締役会で報告された内容を今後も継続的に検討し審議を深め、内容を検証していくべきとされました。なお、2026年5月12日に2027年3月期を初年度とした3ヵ年の中期経営計画を臨時取締役会にて審議、決議の上、開示させていただいております。

① 中長期経営戦略実現に向けた戦略的議論の深化

中長期経営戦略の実現に向け、全役員が共通の事業理解に基づき資本コストや資本収益性を重視し、最適なキャピタルアロケーションおよび株主還元方針といった企業価値最大化に資する「本質的な議論」の深化を図ってまいります。

② ITガバナンスの構築と内部統制の高度化

中長期経営戦略を支えるIT基盤の重要性に鑑み、システム開発・運用における適切な牽制機能の確保やリスク管理・効率化の両面から継続的な議論を実施し、事業の健全な拡大を支える基盤および内部体制の更なる高度化を図ってまいります。

以上